

あなたの「学び」が
日本語を学びたい人の
力になる。



私たちの日常生活の中で、「生活者としての外国人」と
触れ合う機会が、飛躍的に多くなりつつあります。
同時に、暮らしに必要な日本語や
授業で学ぶための日本語が理解できず、
学校になじめなかったり、
将来の夢をあきらめてしまう人も少なくありません。
日本語を身につけたいと頑張っている人たちに、
あなたが学んだことをいかして、
あなたの日本語で支援しませんか。
社会に出てからも、さまざまな場面で
この経験がきっと誰かの、そしてあなたの力になるはずです。

茨城県グローバル・サポート事業



オンライン
日本語サポーター

対象 筑波大学に在学する全学群生

多文化共生社会に向けた地域づくりの力になる



日本語学習支援者
養成プログラム

対象 筑波大学に在学する全学群生 必要単位 8単位以上

日本語教育のプロフェッショナルをめざして



日本語教師
養成プログラム

対象 筑波大学に在学する全学群生 必要単位 26単位以上

外国ルーツの子どもたちの学びをことばの力で支える人材

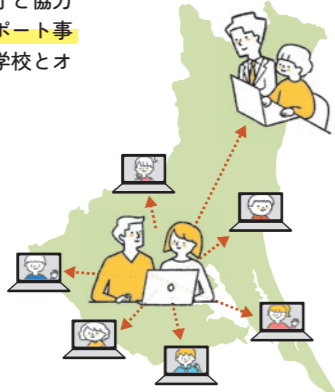
日本の小中学校や高等学校では、日本語の支援を必要としている子どもたちが年々増えています。その一方で、多様なバックグラウンドを持つ子どもたちに、適切な指導・支援ができる教員の数は十分ではありません。将来の学校教育や地域社会を、ことばの力で支える人材が必要です。



茨城県と筑波大学の協働プロジェクト

筑波大学では、茨城県の教育庁と協力して2020年に「グローバル・サポート事業」を始めました。各地域の小中学校とオンラインでつながり、大学生が日本語サポーターとして外国ルーツの子どもたちの日本語学習をサポートします。

この4年間で、32中学校95名の生徒、82名の大学生サポーターがこのプロジェクトに参加してきました(2024年1月現在)。オンラインだからこそ、地域をつなぎ、人をつなぎ、みんなで学び合える仕組みづくりを目指しています。



中学校と大学が連携してできること

大学生の日本語サポーターは、このプロジェクトを通して、生徒の日本語学習のサポートをするだけでなく、生徒の悩みやつまづきと向き合い、ともに歩むことで、自らも成長し、子どもへの言語支援に必要な力を身につけます。

また、アセスメントの実施や指導計画の立案など、学校教育において必要な支援体制づくりについても、学校と協力して進めていきます。大学の枠を飛び越えて学校や地域とつながることで、自分の学びが社会を変えていく原動力になる、そんなプロジェクトを目指しています。



学校の先生との連絡会



学校でのアセスメントの実施

多文化共生社会へ向けて、私たちが力になれること

多くの外国人が日本で暮らす今、多文化共生社会を実現していくためには、コミュニケーションの基本である言語習得をサポートできる人が必要です。筑波大学では、日本語教育や学習支援のスキルを保証する2つの修了証プログラムを開設しています。在学期間中に所定の単位を取得して申請することで、卒業時までに修了証が授与される仕組みです。



多文化共生社会に向けた地域づくりの力になる

日本語学習支援者養成プログラム



http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/cp/

このプログラムは、小中学校・高等学校等の児童生徒教育に携わる教員、生活者としての外国人を支える地域のボランティア、また、専門の日本語教師とともに、学習者の日本語学習を支援するサポーター等として、日本語教育のごく基礎的な資質・能力を有していることを保証するものです。

いま、教育現場や官公庁、NPO団体や一般企業などで、外国人との橋渡し能力を保証するものとして期待が高まっています。

必要単位 計8単位以上(下表参照)

取得後の活動例

外国人児童生徒の授業サポート(教科や日本語の学習支援)、企業や地域における日本語の学習支援、自治体・官公庁での生活情報の提供支援など



修了証の取得に必要な指定科目と単位数

科目群	科目名	必要単位数
学術科目群	日本語教育文法論、日本語技能指導論、第二言語習得論、外国人児童生徒教育論、異文化間心理学、日本語教育心理学、外国人児童生徒支援研究Ⅰ、Ⅱ、外国人児童生徒支援実習Ⅰ	3科目以上かつ 4単位以上
教職科目群	【中学校・高等学校教諭一種】 〔教育の基礎的理解に関する科目〕 〔道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目〕 【小学校教諭一種】 〔教育の基礎的理解に関する科目〕 〔道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目〕	4単位以上

学術科目群では、日本語の構造を分析的に捉える視点や、教授法、日本語の教材・教具の知識、また言語習得や異文化適応の過程など、理論から実践まで幅広く学びます。



日本語教育のプロフェッショナルをめざして

日本語教師養成プログラム



http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/cp2/

本プログラムはより専門的に日本語教師を目指すものに求められる資質・能力を保証するものです。

日本語教員を養成することに特化した内容で、第二言語として日本語を教えるための体系的な知識・技能を身につけ、国内外での日本語教育に関わる多様な社会的ニーズに対応できるプログラムとなっています。

必要単位 計26単位以上(HP参照)

取得後の進路例

日本語教師、学校教員、企業、官公庁の多文化共生・日本語教育に関わる業務担当、海外における日本語教育機関、日系企業等での日本語指導やアドバイザーなど

対象者

筑波大学に在学する全学群生
(大学院生、もしくは学外者が申請を希望する場合は、筑波大学の科目等履修制度に則り履修したうえで申請)

申請受付期日

秋期：9月20日 申請締切(10月下旬 結果通知・修了証発行)
春期：2月20日 申請締切(3月下旬 結果通知・修了証発行)

問い合わせ

筑波大学 日本語・日本文化学類
nichi2_office@un.tsukuba.ac.jp



茨城県グローバル・サポート事業

オンライン日本語サポーター



https://jms.tsukuba.net/japanese-language-support/

授業の空き時間を利用して、好きなときに活動できる

茨城県内の小中高校と連携して、外国にルーツのある子どもたちの日本語学習や教科学習のサポートを行う「日本語サポーター」を募集しています。

しっかり研修を行ってから実習を開始するので、初めての方でももちろん大丈夫です。また、実習中も週1回のチーム・ミーティングで、みんなで子どもの支援について考えます。

日本語支援、キャリア支援、学校づくり、地域連携など、自分の興味に合わせて関わることができます。

子どもの成長に携わりたい

新しいことにチャレンジしたい

こんな人を募集しています!

色々な人と関わりたい

社会に貢献したい

筑波大学生であれば専門は不問。

自分の得意を活かして、子どもたちの学びと成長をサポートしてください。

対象者

筑波大学に在学する全学群生
(大学院生、学外者には単位認定はできませんが、ボランティアとしての参加を受け付けています。詳細はご連絡ください)

問い合わせ

筑波大学日本語・日本文化学類 准教授 澤田浩子
sawada.hiroko.gb@un.tsukuba.ac.jp



履修の流れ

研修(1単位)

- 「外国人児童生徒支援研究Ⅰ」 7月
 - 「外国人児童生徒支援研究Ⅱ」 3月
- のいずれかを履修

- サポーターバンク登録
- オリエンテーション
- 担当クラス決定

活動開始

- 支援活動(週1回~)
- チームミーティング(週1回・金曜7限)
- 学校訪問など

単位認定(3単位)

活動時間が90時間に達したらポートフォリオを提出

- 「外国人児童生徒支援実習Ⅰ」
- さらに90時間で「外国人児童生徒支援実習Ⅱ」



ことばでつながるみんなの「えん」 「えん」からはじまるみんなの未来。

日本語サポーターの有志で学生団体 en nichi を立ち上げました。

外国にルーツを持つ子どもたちと教育に関心のある学生とが、ともに学びあう場として生まれました。

私たちが大事にしていることは、子どもたちの学びを楽しむこと、自分たちで何ができるのかを考えアクションを起こすことです。



7月 キャリアのための親子ワークショップ



8月 サマーキャンプ



11月 植物園での体験学習



11月 絵本読み聞かせ



五十嵐真結さん

日本語・日本文学類卒
教育学学位プログラム修了

サポーター経験から研究テーマを深めました

私は、外国ルーツの子どもたちの日本語教育に関わりたいと思っていたところ、偶然受けていた授業をきっかけに活動を始めました。日本語教育学を学びながら、大学生サポーターという立場で日本語を教える経験は、楽しくもありましたが、理論と実践の間で葛藤することも多く、自分ではどうしようもないことを強く意識することになりました。だからこそ、実践と政策の間を行き来しながら、外国人住民向けの多言語サービスについて研究することで、今後も日本で生活する外国ルーツの子どもたちやその家族のサポートをしたいと思っています。



渡邊由貴さん
国際総合学類 4年



参加者の声

初心者でも安心して取り組みました！

私は当初、日本語支援については初心者状態だったので、活動に参加しようかとても迷いました。社会人になった今振り返ると、この活動で得た経験はとても貴重なものだったと感じます。外国人生徒と話していると、例えばファストフード店の商品の中でも食べられないものがあるなど、宗教と生活の関係性が日本人よりも深いと感じることがあります。そういった新たな視点を学びながら、自分も成長することができました。

活動ではグループで計画を立てたり、手厚いアドバイスももらったりできるので、初心者の人でも安心して取り組みます。大学生のうちにしかできない経験をぜひやってみてください！



富田康平さん
日本語・日本文学類卒、
茨城県庁勤務

理論と実践が教職へのモチベーションに

大学で外国にルーツのある子どもたちの教育に興味を持ち、実際に子どもたちと関わりたいと思い、サポーター活動に参加しました。活動を通して、理論と実践を結び学ぶことができ、教職へのモチベーションも高まりました。教員採用試験の際には、履歴書の資格欄にプログラム修了証のことを書いたことで、面接の際にもたくさん質問いただき、日頃から子どもたちと関わった経験を買っていただけたと感じています。4月から品川区で教員として働きますが、外国にルーツのある子どもを始めとする様々な教育的ニーズを持つ子どもへの支援に、本活動を通して得た経験を活かしたいです。



Shin Yinaさん
教育学類卒、
教育学学位プログラム2年



やさしい日本語についての学びが職務に役立っています

現在NPO法人で子ども支援を行っています。団体の支援を利用する子どもの中には外国人児童生徒も少なくありません。オンライン日本語支援において、やさしい日本語や外国人児童生徒の教育環境について学べたことが、多様な子どもへの対応を行う上で非常に役立っています。また、地域に外国人児童生徒がいて様々な思いをもって学習をしているという事実気付ける視点を得られたことに価値を感じています。さらに在学中は教員を目指していたため、支援のなかで指導案作成や集団授業を経験したことで安心して教育実習に臨めたことも参加して良かったと感じている点です。



苔米地袖季さん
障害科学類卒、
NPO法人勤務

詳細はこちらから

授業の空き時間を利用して好きなときに支援できるオンラインサポート

オンライン日本語サポーター



社会に出たあとも日本語学習を支援できる修了証取得プログラム

日本語学習支援者養成プログラム



日本語教師養成プログラム

